



元 気なまちが

大好きです

「いらっしやい」元気な笑顔で地元のお客さんを迎える道悦島まちづくり委員会の皆さん。目の前には、耕作放棄地などを利用して地元住民が作った「笑顔が見える」新鮮な野菜が並んでいます。

最近、住民自らの手によるにぎわいづくりが注目されています。笑顔をつなげる取り組み。そこで生まれる元気が、さまざまに明るい絵の具となり、島田市というキャンバスを彩ります。

「地域の商店街を利用していますか。市内で行われているイベントや朝市などに参加したことはありませんか」

身近な場所に、魅力的な商店やユニークな企画など、発見がたくさん。例えば、道悦島まちづくり委員会の「採れたて元気市」では、朝市でJR六合駅周辺の活



広報しまだ

Shimada

2014
10
vol.196

目次 — CONTENTS —

- 2 元気なまちが大好きです
- 10 市政あらかると：リバーフレンドシップ/事業仕分けなど
- 11 第57回 島田鬮まつり
- 12 まちの話だい
- 14 しまだ情報：市の花・木・鳥／自治基本条例／新市誕生10周年／市民文化祭など
- 22 スクスク子育て
- 23 スポーツ INFO
- 24 図書館だより
- 25 友好のかけはし
- 26 暮らしのシグナル
- 27 文化課通信
- 28 けんこうナビ (11月)
- 32 便利帳／彩りもう一品
- 34 掲示板
- 35 市政羅針盤／みんなのひろば／ソラマメ
- 36 しまだ人：赤堀まきさん

表紙 — COVER STORY —

伊太地区の田んぼで稲刈り体験が行われ、子どもたちが稲穂の天日干しに汗を流しました。

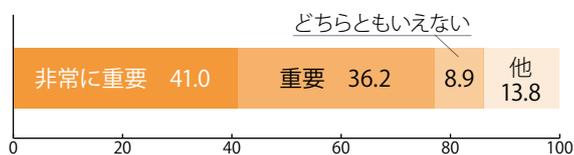




■ これからのまちづくりは、どのように進めればよいか。



■ 魅力ある商店街づくりなどの商業振興は重要か。



※住民アンケート調査「報告書」より(平成25年8月)。

性化を目指しています。

一方、子どもたちの職業体験を行っている「こどもわくワーク」では、保護者から「子どもの参加をきっかけに、地元商店のいいところを知りました」などの喜びの声が多数届き、保護者が地域の魅力を知る機会にもなっています。

市が、昨年実施した市民アンケート結果からは、これからのまちづくりは「市民と行政の協働が進めたいと望む人」や「魅力ある商店街づくりなどの商業振興が重要」と考えている人が多いことが分かります(次のグラフ)。身近な魅力を知るきっかけに、市内の「にぎわいづくりイベント」に参加してみたいかがでしようか。今回は、地域のにぎわいを紹介します。

昨年度から開催されている「こどもわくワーク」もにぎわいづくり事業の一つです。この事業は、NPO法人クロスメディアしまだ（日之出町）が実施しています。事業の目的は、小学生が地域の店舗で職業体験をし、子どもたちに身近な店舗やその仕事の魅力を伝えていくことです。また、子どもたちの保護者にとっても地域の商店に入る機会となるため、地域商業の活性化の役割も担っています。

第3回目として、7月29日～9月6日に実施したこどもわくワークでは、六合地区や金谷地区からの参加も増え、過去2回よりも多い34店舗（市役所・事業所を含む）が子どもたちの受け入れに協力。また、子どもも参加人数も146人（応募総数332人）となり、回を重ねるごとに事業が浸透し注目度が上がってきていることが分かります。今後の目標は、参加できるエリアを徐々に拡大し、そのにぎわいを市全体に広げていくことです。

過去2回は小学生低学年向けの「まちワーク」（個店での職業体験）のみの開催でしたが、今回から小学生高学年向けの商品づくりから販売に至るまでを経験する「キッズDreamマーケット」を市内の母親団体「島ママDream」と連携して取り入れるなど事業が充実し、子どもたちの仕事に対する魅力創出にもいっそう力が注がれています。

動き出すにぎわいづくり

NPO法人・商店・家庭・行政が連携して動き出した新しい形のにぎわいづくり事業「こどもわくワーク」。その中心は地域の将来を担う子どもたちです。子どもたちは職業体験を通して、地域愛を育みつつ家庭と商店を近づけ、より活力のある地域を形成する架け橋にもなっています。

まち全体を大きな家族に

地元川根町に戻って就

職した私は、仕事で地域の皆さんと触れ合ううちに、ここには素晴らしい地域性があることに気付きました。都会では隣近所の顔も知らないような時代に、訪問先で「楽しみにして待ってたよ」「絵美ちゃん、元気にしてたかい」などと温かい声を掛けてくださり、何度となく元氣付けてもらったからです。幼い頃から皆さんに氣に掛けてもらい、見守られていたんだなって…。「地域みんなが顔見知り」と言っても過言ではないでしょう。

「こどもわくワーク」は、この良き地域性に氣付いてもらい、いっそう地元を好きになってほしいと思つて企画した事業です。今の職業に就いたのも、顔見知りを超える「家族のようなまち」をつくる仕事がしたいという思いから決めました。

大型店などでの買い物に慣れた人や、嫁いできたお母さんたちは、身近にあるお店をあまり知らず、知っていたとしても入りにくくて、お店の魅力を知る



NPO法人 クロスメディアしまだ事務局長
こだま えみ 兒玉絵美さん（旗指）

機会がありません。子どもとおして、地元のお店に入るきっかけになればうれしいです。子どもたちには、お店を出すことの楽しさや難しさを学ぶとともに、憧れの仕事や大人が地元にいることを知るなど、地域愛を育んでほしいです。受け入れた商店も、子どもたちの頑張る姿や上手にできて喜ぶ表情から元氣をもらうことでしよう。この事業によって、地域コミュニティが強化して「家族のようなまち」を実現できればと思っています。一部の地域から始めた事業ですが、課題を克服しながら、範囲を広げていきたいと考えています。いつの日か、まち全体が大きな家族になることを願っています。



子どもと商店のつながりを生む



こどもわくワーク

→ こどもわくワークは、NPO 法人クロスメディアしまだが企画・運営している「にぎわいづくり事業」で、小学生低学年向けの「まちワーク」と小学生高学年向けの「キッズ Dream マーケット」を実施しています。

まちワークでは「おうちで5回お手伝いをする」などを条件に、子どもたちが市内の協力店の中から好きな仕事を選んで職業体験をします。キッズ Dream マーケットでは、自分たちで商品を作ったり、技術を教えてもらったりして、実際に自分たちのお店を「しまだ元気市」に出店。ねだん決めやチラシ作りのほか、当日の接客など、商売の難しさや楽しさを学びます。体験後には、お給料としてこども館や市内の商店・施設で使用することができる「わくマネー」が、島田信用金庫本店で支払われ、お金の大切さを体感します。



露店販売の職業体験



**むずかしかったけど
とっても楽しくお仕事
できたよ**

元気を肌で 体感しよう

にぎわいをつくり出す事業は、イベントや企画の実施者だけでなく、客として訪れた人たちも元気にしてくれます。

あなたも、各地の事業に参加したり足を運んで、にぎわいがもたらす元気を肌で感じてみませんか。



シマアツの座布団づくり体験

Pick up!

■これから開催される「地域にぎわいイベント」

イベント等	とき	ところ	主催者ほか
六合「文化祭」	10月25日(土)・26日(日)	ロクティ・六合小学校体育館	六合コミュニティ委員会
大津「ふれあいまつり」	11月2日(日)	大津地区	大津自治会
童子沢「もみじまつり」	11月16日(日)	大代童子沢親水公園周辺	大代振興会
川根ふるさとふれあい祭り	11月	川根小学校グラウンド(未定)	川根ふるさとふれあい祭り実行委員会
相賀文化祭	1月18日	相賀地区	相賀コミュニティ委員会
伊太梅まつり	2月中旬	上伊太地区の新東名高架橋下広場	ふるさと伊太を明るくする会

※各イベントは、会場の都合などにより変更する場合があります。

耕作放棄地から地域活性化を生み出す



採れたて元気市

道悦島まちづくり委員会が音頭をとり、町内の耕作放棄地や家庭菜園などで収穫した野菜を安く販売しています。収益は、六合駅周辺の活性化に役立てます。

今年4月から初めた栽培は順調。仲間の顔を見ながらの作業はとても楽しく、私はたくさんの元気をもらっています。今後は、もっと仲間を増やし、町内全体を活気づけていきたいです。朝市への出店・買い物は、町内以外の人でも大歓迎。道悦島の活気を体感しに来てください。

とき／第2・4土曜日 午前9時～正午

ところ／道悦島公民館

内容／採れたて新鮮野菜の販売など

※11月22日(土)は「ふれあい祭り」を開催。空くじなし抽選会やじゃんけん大会など、イベントを多数用意します。



耕作放棄地でさつまいもを収穫

町内が一体となり活気のあるまちをつくらしていきたい

道悦島まちづくり委員会耕作放棄地部会長
八木邦良さん(道悦一丁目)

おび通りから活気をつくり出す



しまだ元気市

商店街の活性化を目的に「おび通り」を活用して、毎月1回開催している朝市です。みんな地元愛が強く、商店街から島田のまちを盛り上げていきたいと願っています。たくさんの人に足を運んでもらえるように、6月～9月をお出かけしやすい「夕涼み市」にするほか、季節に合わせたイベントや取り組みを多数取り入れています。

7年前に勤めていた東京の和菓子店を辞め、父と共に実家の和洋菓子店を営んでいます。東京に比べ、昔からのお客さまに支えられていることを実感し、感謝の気持ちが絶えません。地元のためにも、父の代から参加している「しまだ元気市」に出店し続けたいと思っています。
次回開催／10月19日(日) 午前9時～午後1時
ところ／おび通り



お客の目を楽しませながらの「どらやき」販売



支えてくれる皆さんへの感謝の気持ちで商店街を盛り上げます

しまだ元気市実行委員

増田考弘さん(和洋菓子店「龍月堂」/本通六丁目)

Pick up!



■しまだ朝市マップ

▶市内19カ所の朝市や農産物直売所の情報や「具だくさん島田汁」のレシピを掲載。市役所・各支所・公民館などで配布しているほか、市ホームページでもご覧になれます。

☞<http://www.city.shimada.shizuoka.jp/nougyo/asaichimap.html>



サービスの鉢植えを手にする子どもたち

島田の個店の魅力を精いっぱい伝えて市全体の活気につなげたい

島田がアツい! プロジェクト実行委員
藤田太さん(インテリアショップ「FORMS」/中央町)



魅力あふれる商店のパワーみなぎる



シマアツ

个性的で魅力のあるお店が「島田を活気のあるまちにしたい」というアツい情熱を持って連携し企画しているシマアツ。開催日には、お客さまが「シマアツ」と言うだけで、さまざまな特典やサービスを受けることができます。最大の特徴は「自店の顧客を他店の新規顧客に、他店の顧客を自店の新規顧客に」するため、互いに他店の魅力や長所を宣伝し合うこと。最近では、数軒のお店で連携したコラボ商品も出てきています。

私たちは「島田のアツさ」を発信して市内の商業を盛り上げ、島田へ遊びに来る人を増やしたいと思っています。
次回開催／11月15日(土)・16日(日) (初の2日間開催)
専用ホームページ／☞<http://shimadagaatsui.eshizuoka.jp/e1231591.html>

元気なまちには 笑顔がいっぱい

にぎわいをつくり出すイベントや企画は、多くの参加者に元気を与えることができますが、事業を継続し次に

なげていけるかどうかは、にぎわいの度合いによって左右されます。そのため、一人でも多くの人が参加し、活気を生み出さなくては活動自体が続いていきません。

ひとくちに参加といっても、事業を実施する側に加わるだけが参加でなく「楽しみたい」「見てみたい」と、興味を持って足を運ぶことでも参加できます。各事業のにぎわいを「点」とするならば、そこで感じたことを家族や知り合いに伝えるあなたは「線」。あなたの言葉が架け橋となり、新しい人が参加するきっかけになるのです。そして線は、やがて「面」となって、まち全体ににぎわいが広がり、このまちに住む私たち一人ひとりに大きな元気をもたらしてくれることでしょう。

市では、相談・協働・支援など、さまざまな方法でサポートしていきま

とってもたのしかったよ みなさんありがとう



こどもわくワークの小学生低学年向け「まちワーク」に参加した子は、職業体験を振り返るために、感想などを絵日記に書いています。絵日記は、次回開催の参考にするとともに、子どもたちを受け入れた店舗の皆さんにも渡しています。皆さんからは「子どもたちの真剣な表情を思い出します」「仕事をよく見ているんだなと関心しました」などの声が聞かれました。店頭飾っている店舗もあるので、気付いた人は、ぜひ、ご覧になってください。

にぎわいを絶やさず、次につなげていくことが大切。そのためには、架け橋となる人が必要です。このまちに大きな元気をつくるため、共に歩んでいきましょう。

商店街のにぎわいを育む



商工課 商工係
とみながまさかつ
係長 富永正克

おび通りの完成を機に12年前から始まった「しまだ元気市」は、今年7月で150回目の開催となりました。しまだ元気市は、(株)まちづくり島田を中心に、島田市商店街連合会・島田商工会議所・市が実行委員会を設置し、商店街の活性化を目的に実施している定期市です。委員会では、催しが順調に実施できるように企画・運営・会場設置などを協力し合っています。

イベントや露店に参加されている皆さんは「おび通りを笑顔でいっぱいにして、市のにぎわいへとつなげたい」という思いで、市民の皆さんが心から楽しめる催しを目指しています。

これからも、おび通りから皆さんの笑顔が生まれるよう、私たちもできる限りのサポートをしていきたいと思っています。



絵日記

「シュエットでお手つだいをしたよ」

島田第三小学校二年

のむらともか

シュエットでお手つだいをしました。さしよに、おそつじをしました。すみにほこりがたくさんあったので、きれいにそうじをしました。つぎに、ふくろにラッピングをしました。リボンをいっぱいつけてかわいくしました。さいごに、おきやくさんがほしいものをメモしたり、ほしいキーキをふくろにいれました。すぐたいへんだったけど、たのしかったです。

絵日記を手に

「子どもたちを受け入れてみて」

八木健司・友美

(シュエット／本通四丁目)

今回は3回目の受け入れです。いつも、子どもたちの感想とかわいい絵が書かれた絵日記が楽しみです。お店と子どもたちがつながるこの企画を通して、地元の個店に愛着を持ってもらえたらうれしいです。地元には、魅力のある店舗がたくさんありますので、皆さんも今まで知らなかった魅力的なお店を発見してみませんか。